巻頭言

学会創立20周年を祝して

日本放射光学会会長
雨宮慶幸（東大・新領域）

日本放射光学会は1988年４月に設立され，今年で満20年を迎えました。学会設立20年目の大きな節目を迎えて，本号ではその特集として，高良和武初代会長，佐々木泰三第２代会長，そして，菊田惺志元会長（1993年会長）に放射光科学と本学会のこれまでの歩みに関して執筆して頂きました。この特集号に先立ち，上坪宏道元会長（1997/98年会長）が執筆された記事「わが国の放射光科学の歩み」（2007年20巻１号）があります。それらを読ませて頂き，日本の放射光科学がここまで発展する過程において，多くの研究者の情熱，創意工夫，献身的な努力があったことを改めて実感します。また，その中で本学会が果たした役割の大きさを再認識しました。

設立20年というのは，学会としてはまだ若いとはいえ，成熟期を迎えました。成熟した学会として，今後の10年間に向けた活力ある20歳代において，いかなる Vision と Mission を持って放射光科学の推進に貢献すべきかについて考える重要な節目であると思います。外国にも多くの放射光施設がありますが，「放射光科学」を冠にして学術活動を行っている学会を有しているのは我が国だけであり，本学会をどのように運営，発展させていくかを考える際に，見本や参考になる先例は世界には存在しません。その意味で，本学会は文字通りオンリーワンとしての自覚と責任をもって，学会活動を通じて放射光科学をいかに推進，発展させて行くかを真剣に考え，その指針を示す使命を持っていると思います。

放射光科学を発展させるための大きな２つの方向性は，

1）　先端的な放射光科学技術の更なる推進

2）　学際的で幅広い放射光利用の裾野の拡大

です。この２つの方向性は相互に密接に関係しています。また，この方向性は，各放射光施設が個別に進める施策とも密接に関係しています。

本学会の会員の皆様１人１人が，熱い情熱，創造性のあるアイデアを持ち寄って，今後も本学会の活動を盛り立てて頂き，それを通して放射光科学の更なる推進，発展に貢献して頂きたく，お願い申し上げます。

(C) 2008 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research